



# 元協力隊かく語りき

～元川西町地域おこし協力隊の塗貴旭が置賜暮らしを語ります～



今日の豆知識： お盆にお墓の裸電球は置賜の風習なり  
東京にはありませーん！

「あれから時は過ぎ、川西夏まつり…  
仕事で行けども何故か、嗚呼、懐かしきかな」



ある日、映画を観ていたら「これは！川西の小松じゃん！」という場面発見。写真左です。驚異的な類似です。映画「リトル・フォレスト」は里山で生活してみたくなる映画。現金収入が少しあれば出来るかも。

そして、伝国の杜でライブしました。スニーカーの反射材が照明で超反射してまぶしい。弾ってる自分もまぶしい。。思うように出来なかったが、努力が報われないのはギターでは毎度の事。

8月8日18:00。この原稿をいつものカフェで書く。今日はピアノの演奏付き。そうなんです、たまーに生演奏をやっている。有名な曲ばかり、クラシックをまともに聴いたことないから超勉強になる。「G線上のアリア」はこんな展開なんだとか、ピアノアレンジだと、ここにベース音入れるんだとか。自分のギターの参考に。今回の伝国ライブでも、このカフェで聴いたピアノを参考に曲を作るが、上手いかなかった。完成度が低かった。まあ、ライブだから現状を出せればいいんだけど。

8月はどこもお祭りの季節。ありがたいことに今でも飯豊町や高島町でギターライブに誘われている。長いものは4年間、ずっと出演している。ライブが終わると声をかけられることも多く「新しい感じ最高だよ。米沢に新しい風吹き込んでよ」「あたし歌好きなんで、今度、伴奏してくださいあ〜い」とか色々ある。レスポンスがあるとうれしい。珍しいものに反応するのは、様々な文化を取り入れるためには大切な事。ずっと演奏してきて、少なくとも誰かが何かをしてくれるのを期待しているという意図はわかったなり。

さて、昨日、ささやかな楽しみを見つけた。家の近くのコンビニで「ホームランバーチョコ味」を買って、アパートまで食べながら帰ること。夜は風が気持ちいいし、周りは田んぼしかないので、緑のにおいがキャンプを連想させる、感受性豊かで繊細な自分にはぴったり(笑)あと、最近では花火大会が多い。米沢でもう2回も見た。実はわたくし、花火好きなんです。山下清のドラマを子供頃の頃見ている、花火の切り絵が大作でして、山下ファンとしては花火を題材にすることに共感しますな。ヒュー〜ドン！ドン！暗闇で光る光は何であるに綺麗なんですかー！！

話が飛びますがカフェのピアノ演奏の件、ミステルの曲アレンジがあったけど、よく聴くとクラシック音楽のメロディーそのままですな。だからヒットするんだな。

料理の味付けの話。最近わかったことは、野菜の下処理によって味が激変すること。たとえば、ナスは微妙な食感が苦手なんだけど、お店で出てくるナス料理はなんか美味しい。味付けが濃いからと思いきや、実はそうではなかった。あらかじめ火が通りやすく「切れ目」を入れておけばいいのでした。そうしたら中まで味が染み込むんですな。そして、野菜炒め。これはシンプルながら奥が深い。一番絶妙なのは塩、コンソウだけで味付けしたもの。そして油の量と食感も大切。油が多いと野菜の味がなくなるし、少ないと生っぽい。炒めすぎてシナシナだとイマイチ。そうでないとい固い(笑)野菜を入れる順番とひき肉の味付けを研究中。

秋田の協力隊の先輩が、引き続き秋田で頑張っている。蕎麦を育てたり、プレゼンしたり何かと忙しいけど、充実した毎日みたい。それが、あの人がやりたいことだったわけだから、前向きに頑張ってほしい。また遊びに行くでしょう。県内外の元協力隊の情報が入るけど、頑張ってるなーと感心してます。



(´▽`)

へえ〜  
そーなんだ！

どうやら、東沢のHPがリニューアルしたらしいよ！  
情報盛りだくさんで、激アツなんだってさ。  
そんでもって「塗コラム」も今までのぜ〜んぶ見れるらしいよ！  
今すぐ「川西 東沢」で検索!!

ε=ε=ε=ε=ε=ε ー(□°;)ー ヲダヲッ!!

# 8月 日常掲示板

独り言なり～（`▽`）

毎度おなじみ、マニアックシリーズ。まずはカメラの話。  
フィルムカメラを修理していた時に感じた事は、内部は時計のような精密な部品の集まりで、フィルムカウンターの可動部分は針金のような金属の柔軟性でバネになっていたりする。金属の質が問われる部分。巻き上げ機構に関しては、ギヤの組み合わせが重要。金属加工の精度が物をいう。色々なメーカーのものを修理したが、昔の日本製は素晴らしいと思う。ドイツ製が素晴らしいと言われるが、確かにライカのファインダーは良いと思う。しかし、その後、どんどん品質を上げるのは日本製だ。  
推定1920年前後のコダックの蛇腹カメラはシンプルすぎて、今の写真という概念と違う。記録する道具そのもので、細かい設定は何も出来ない。このカメラを手に入れた時は、もはや初めて購入した人を想い、歴史を刻んできたカメラに重みを感じた。なんと、シャッタースピードも自分でレバーを動かす。  
しかし、レンズの研磨技術など、手探りであったと思うと、どうやってそんな技術が身に付くのか不思議ではない。  
昔の日本の職人はすごいと思う。特別な才能があろうがなかろうが、仕事としてカメラのような精密機器を商品として大量生産するのだから。デジタルならペンタックスが好きだ。DS,K100,k200～など新製品を出すたびに改良してくる。もう少しボタンがここにあれば・・・、ここが鼻に当たるんだなと思っていると、本当に改良してくるからビックリする。  
フィルムだと一眼はミノルタ、マミヤ。レンジファインダーならフジノン、マミヤ。とまあ、マミヤが好きなんだな。  
理由としては、設計がスマートで、部品の加工精度が高い。ギヤの精度も、レンズの品質も。デザインは普通である(笑)マニアなので同じ機種を2台くらい持っている。  
マミヤ・オートデラックスはシャッターフィーリングが一台は芸術的に素晴らしい。切った瞬間に手に伝わる振動が、いかにも内部の機械が動きまわったという感じで。もう一台はボディに凹みがあるため、昔、落とされたと思われるもの。だから、シャッターフィーリングはイマイチ。  
でも、どちらもレンズが素晴らしく緑が綺麗に出るので、自然風景には最高。  
そして、とっておきの話があります。マミヤZEクオーツという一眼レフが、たぶん70、80年代に発売されて、ZE、ZE2と自分も持っている(2台)。  
というのは、カメラは現場に持ち出すとなると、耐久性と即戦力になるものが重要になる。じっくり撮るのもいいが、フィルムの場合、画質はフィルムとレンズで決まるので、結局、使いやすいボディなら何でもいいのだ。だから軽くて、すぐに露出計が効いて、シャッタースピードが決められるもの、そしてマミヤの発色が出るものだとZEだった。ななな何と、このZEクオーツ。開発したのは僕のおじさんだった。つまり、父親の兄。マミヤの社員だったとは知らなかった。何か悔しい気もするが、いいものはいい。

いつも寝る前に文章を書く事が多い。今も深夜2時過ぎ。不思議なもので眠いから寝たいのだけど、電気も消して、寝る寸前にパソコンを開いてしまうのだ。  
今、パッと思いついたのはフェイスブック(以下、FB)とかの影響で人との付き合い方が変わってしまったなということ。  
昔は一度会ったら、その時に名刺交換なり、自己紹介なりしないと相手の記憶に残らず、会う機会もなければそれで終わりだったのに、FBなんか似た名前を検索までしてくれて、メールも送れる。そして、普段、まったく会わない人でも、どこにいて何してるかという情報まで送られてくる。  
だから、対面したときに頑張らなくてもよくなった。話が苦手な人でもネット上で話せるようになった。わけではないが。  
誰がどこで何をしているか？と気にしているかも、相手も同じ気持ちだ。「予定があるから参加できません」という断りをして、別の集まりに行くと、同じ日にピースしてる集合写真が誰かが送れば投稿されてしまう。「予定なんかないじゃん」と疑われて軋轢を生む。  
自分は一人しかいないし、自分のことは自分で決めたいのに、周りからプレッシャーをかけられる。

悪気はなく書きますと、田舎というのは「リアルFB発祥の地」だと思う。車が停めてあるかどうかで在宅確認し、日常生活が、小さいコミュニティで物事が進む。  
誰が何をしているか？その伝達スピードは極めて速い。要は噂話である。それらが生活の中心的な話題になる。だから大きい変化よりも、小さな変化に敏感である。  
「今度、世界的に有名な・・・」よりも「誰々さん家の何とかさんが、〇〇してるんだ」とのほうがコミュニティには必要な情報なのです。  
これはこれでいいのです。けれど、十人十色の世の中、リアルFBでは「友達になった人」の事しか知れてない。  
だから、井の中の蛙になりがち。結局、ここを打開するには、リアルな人との付き合いが必要になるでしょう。  
と、書いておきながら、だからなんだ！と思う、自分もいるわけです。こういう外部視点の意見をいつも書いてきたけど、本当はそんなこと、ど～でもいいやと思いながら酒を飲みたいだけなんでしょう。今ちょうど僕の中では転換期をむかえています。置賜5年目、ここがどんなところか、どんな生活か？何となくわかってきた。  
さあ、自分はどうしたいんだろう？ずっといても、いなくても毎日時間は過ぎていく。何かしたいことがあるからここにいるのか？なくても、このままそうしていれば満足か？  
周りの環境のせいではなく、自分のことを決めなきゃなと思います。でないと、40歳になっても同じ事言っていそうで、恐くて仕方ない(笑)

週に2日、朝番の日がある。5:30ごろ、上杉神社の前を通ると、決まって同じ人がウォーキングしている。まるでジオラマのようである。  
そのおじさんはいつも上杉神社の前で立ち止まり、帽子を脱いで、深くお辞儀をする。こういう習慣は大人になってからは身に付かない。子供の頃から身に付けた、一種の教育だ。  
それを美德と思えるのは、やっぱり日本のいいところだと思う。

屋に吉野家で牛丼を食べ過ぎたせいで、味覚がおかしくなった(笑)最近パンを食べていたが、飽きたのでカップめんにした。そろそろ、まるまつの出番。

花火大会で混んでいるだろうと思ったら、意外と空いていた。店で並んでる時に前を通る高校生が、みな「すみません」と挨拶をするので、並ぶのやめようと思った。  
礼儀正しくていいなあ。川口市の人類に見せつけたいくらいだ(笑)